

これからの荻窪駅周辺まちづくりを考える アイデアコンペ 実施報告書



支えあい共につくる
安全で活力ある
みどりの住宅都市
杉並

平成24年9月

もくじ

1．開催趣旨	1
2．実施概要	2
3．実施経過	3
4．各賞作品	5
5．最終審査	8
(1) 開催概要	8
(2) 区長あいさつ(要旨)	8
(3) 提案者の発表と質疑応答	9
(4) 選評及びパネルディスカッション	15
(5) 来場者アンケート結果	26



1 . 開催趣旨

杉並区は人口約 54 万人の緑豊かな住宅都市です。ＪＲ中央線が区を東西に横切り、沿線 4 駅（高円寺、阿佐ヶ谷、荻窪、西荻窪）周辺は、中央線文化ともいわれる個性的な沿線文化が見られる地域ともなっています。

その中で、ＪＲ荻窪駅は 1891 年(明治 24 年)12 月 21 日に甲武鉄道の駅として開業し、昨年開業 120 周年を迎えた区内で最も歴史ある鉄道駅です。1962 年（昭和 37 年）1 月には地下鉄丸ノ内線が荻窪駅まで開通し、現在は 1 日あたりの乗降客数が約 24 万人を数える区内最大の交通結節点となっています。

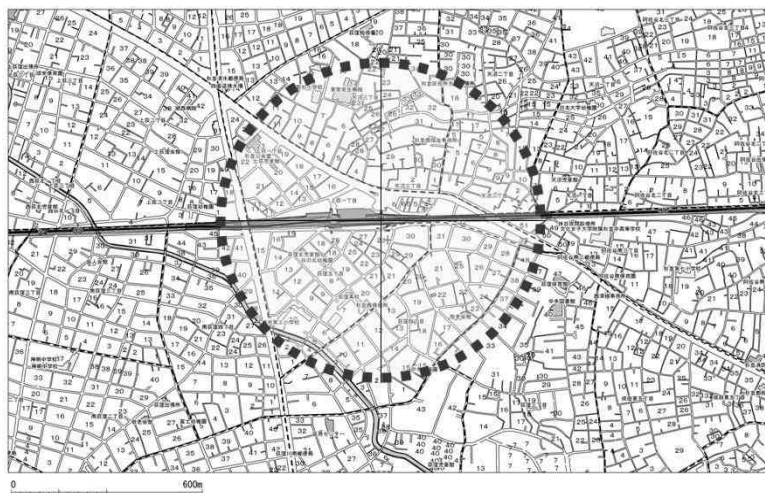
杉並区は、住宅系宅地の割合が 23 区中最も高い住宅都市ですが、荻窪駅周辺地区は、区の都市計画マスタープランである『杉並区まちづくり基本方針』（平成 14 年 6 月）で、働く、遊ぶ、憩う、集う、学ぶにぎわいの芯である「都市活性化拠点」に区内で唯一位置づけられている中心的な拠点です。これまでバリアフリー化や周辺道路、駐輪場整備に加え、平成 23 年 3 月には新しい北口駅前広場がオープンするなど駅周辺の整備が行われてきました。

しかしながら、荻窪駅は、区内ＪＲ駅で唯一の地上駅であり、南北地域の分断が見られることや、交通広場が十分に確保されていないなど構造的な課題も抱えています。また、周辺に目を向ければ、中央線三鷹～立川間の高架化（平成 22 年完了）や、西武線、京王線、小田急線の連続立体交差事業、中野駅周辺の大規模再開発など、利便性向上に向けたまちづくりが進められています。荻窪駅周辺においても、時代の変化に対応して都市の魅力や活力を高めていくことが求められています。

そのような中、平成 24 年 3 月、区では、今後 10 年間に展望した区のランドデザインや区政の進むべき方向性を示す基本構想を策定し、荻窪駅周辺まちづくりについては、「南北分断の解消と都市機能のさらなる強化を図ることにより、杉並の『顔』としてのまちづくりを積極的に推進」とされ、改めてその重要性が確認されました。

そこで、区では、今後 10～20 年後を見据えて、目指すべき荻窪駅周辺のまちづくりについて多様なアイデアを募り、それを参考に、駅周辺住民の方々はもちろん、全区民的な議論を行うことで、今後のまちづくりを考えていく契機とするため、本アイデアコンペを開催しました。

本コンペの優秀作品の選定にあたっては、まちづくりの専門家などから成る委員会で審査を行うとともに、区民の皆様にも参加を求めるとしました。本コンペの結果が今後のまちづくりの方向性を決定するものではありませんが、多様なアイデアについては、今後のまちづくり検討の参考としていきたいと考えています。



この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（空間データ基盤）、数値地図2500（空間データ基盤）及び数値地図500メッシュ（標高）を使用したものである。
【承認番号 平付総発 第222号】

図 提案対象区域の目安（荻窪駅 500m 範囲）

2 . 実施概要

主催	杉並区				
参加資格	<p>個人、個人のグループ、企業、団体いずれも応募可能。 年齢、国籍、資格、経験、住所等不問。 同一の個人、グループ、法人、団体による複数応募は不可。 審査員と、審査員が経営又は代表する組織の職員、及び事務局関係者による参加は不可。</p>				
提案募集内容	<p>10～20年後を見据えて、荻窪駅周辺の今後目指すべき姿及びそれに向けた具体化に関するアイデアを募集する。 「地区の現状と課題」で述べた地域の諸課題や、将来の社会・経済動向も踏まえた提案、今後のまちづくりの指針となりうる現実性のある魅力的な提案を歓迎する。</p>				
提案対象区域	<p>「荻窪駅周辺」としては、駅から500m程度の範囲を想定するが、内容やテーマに応じて、適宜必要な範囲を設定して提案。</p>				
提出物	<p>A1判パネル1枚(594mm×841mm、横長・片面で使用) 提案趣旨説明書A4判1枚、電子データ</p>				
審査	<p>『これからの荻窪駅周辺まちづくりを考えるアイデアコンペ審査委員会』において、一次審査(書面審査)及び最終審査(プレゼンテーション及び質疑応答)を行い、各賞を選定。</p>				
評価の視点	評価項目	評価内容			
	課題対応性	現状分析が適切で、地区の課題に的確に対応しているか。荻窪らしさ、杉並らしさが活かされているか。			
	先見性	10～20年後の将来を見据えた提案となっているか。先進的モデル性。			
	具体化提案	実現方法(事業手法等)、実現工程、費用対効果等、具体化へ向けての提案が妥当で、かつ、積極的になされているか。			
	社会的ニーズへの対応	環境問題への対応、少子高齢化、震災対策、区民参加といった社会的課題に積極的な提案がされているか。			
	独創性	アイデアのユニークさ、他のアイデアとの差別化の程度。			
	印象度	表現やアイデアのインパクトの強さ、プレゼンテーションのアピール度。			
審査委員会 (50音順・敬称略)	伊藤 滋	早稲田大学特命教授【委員長】			
	今村 国治	杉並区町会連合会会長			
	大沢 昌玄	日本大学専任講師			
	河島 均	東京都住宅供給公社理事長			
	倉田 直道	工学院大学教授			
	須磨 佳津江	ジャーナリスト			
賞・賞金	入選	金賞	賞金 20万円	3作品	
		銀賞	賞金 5万円	3作品	
	佳作	-	7作品		

3 . 実施経過

作品募集 (平成 24 年 4 月 19 日 (木) ~ 6 月 29 日 (金))

- ・ 応募総数： 72 作品 (仮エントリー票提出数： 117)

応募者属性別	応募数
企業・社会人	23
研究室・学生	33
団体・その他・不明	16

応募者住所 (所在地) 別	応募数
東京都	50
神奈川県	10
埼玉県	1
千葉県	8
北海道	3

応募種別	応募数
個人・個人のグループ	61
企業・団体	11

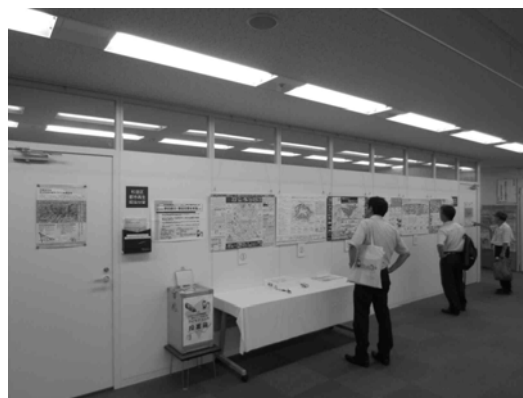
質問受付 (平成 24 年 4 月 19 日 (木) ~ 5 月 21 日 (月))

一次審査 (書面審査) (平成 24 年 7 月 31 日 (火))

- ・ 提出物による審査で、最終審査に進出する入選 6 作品と、その他の佳作 7 作品を選定。



一次審査の様子



事前投票の様子

入選作品事前展示・投票 (平成 24 年 8 月 15 日 (水) ~ 8 月 21 日 (火))

- ・ インテグラルタワー (上荻 1 - 2 - 1) 2 階の杉並区都市再生担当分室前展示コーナーで、入選 6 作品の展示と、事前投票を実施。
- ・ 事前投票数： 88 票

事前投票結果

提案番号							計
投票数	15 票	31 票	26 票	11 票	0 票	5 票	88 票

提案番号は 5 ページを参照

最終審査・表彰式（平成24年9月2日（日））

- ・入選6作品について、提案者によるプレゼンテーション、質疑応答を行った後、事前投票結果や、会場での投票結果を加味して、審査委員会により、各賞を決定。
- ・区長より入選者に金賞・銀賞の賞状ならびに賞金を授与。
- ・最終審査来場者数：184名
- ・会場投票数：108票

会場投票結果

提案番号							計
投票数	6票	27票	25票	17票	11票	22票	108票

提案番号は5ページを参照



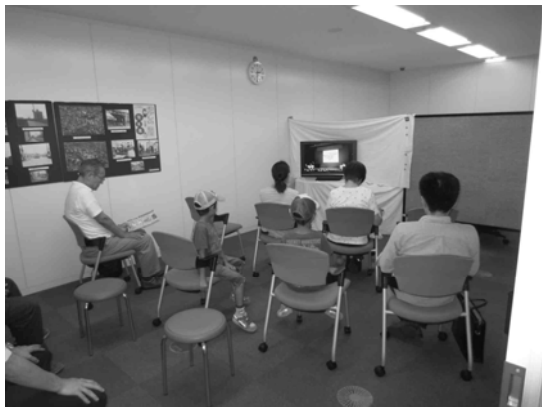
各賞の発表の様子



表彰の様子

全作品展示（平成24年9月19日（水）～9月29日（土））

- ・最終審査上映会（平成24年9月27日（木）～9月29日（土））
- ・インテグラルタワー（上荻1-2-1）2階の杉並区都市再生担当分室前で、全72作品の展示と、最終審査の動画上映会を実施。
- ・上映会来場者数：24名



上映会の様子

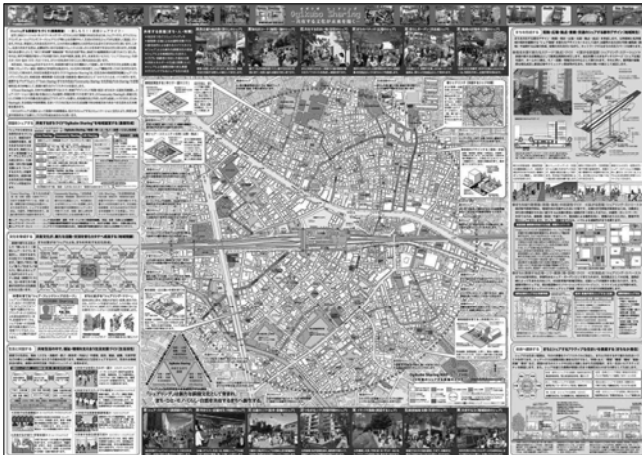


全作品展示の様子

4 . 各賞作品

入選作品一覧

賞	提案番号	作品タイトル	提案者（所属）
金賞		Ogikubo Sharing - 共有する文化が未来を描く -	高田康史、小石川正男、保坂裕梨（日本大学短期大学部建築・生活デザイン学科）
銀賞		荻窪そらひろば - 街を広場で結び、もっと人を呼ぶ街へ -	塚田綾乃、外松浩一（ヒューリック株式会社アセットソリューション部）
金賞		“天空のマルシェ” & “地底のラビリンズ”	五洋建設株式会社（提案代表者：小林義和）
銀賞		Park! Park! Park! 車は停めて 駅やまちをまるごと広場のよう 自由に使い ひとが立ちどまりたくなる おぎくぼ	八千代エンジニアリング株式会社(提案代表者：星野武司)
銀賞		種をまき、育てる荻窪 あふれる活動、多彩なまちの作り方	松永仁、海野沙弥佳、角田大樹（慶應義塾大学環境情報学部）、大沼芙実子、福島絵美、宮川眞海子（慶應義塾大学総合政策学部）
金賞		2つの『コト』が生むまちづくり	角田崇一郎、川上義人（株式会社石本建築事務所プロジェクト推進室）、梶原恒平（千葉大学大学院工学研究科建築・都市科学専攻）



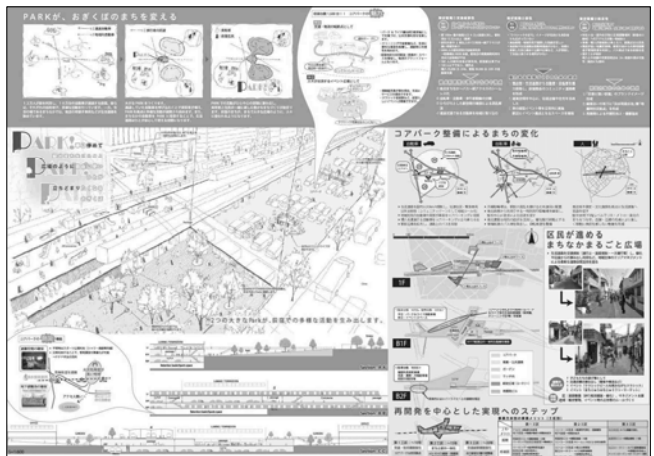
提案番号（金賞）



提案番号（銀賞）



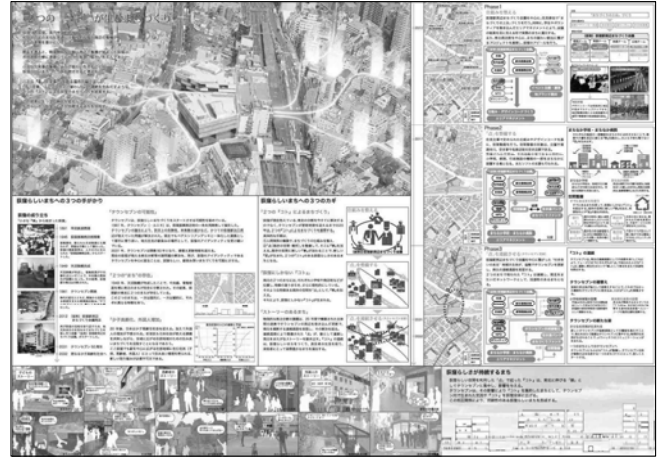
提案番号（金賞）



提案番号（銀賞）



提案番号 (銀賞)



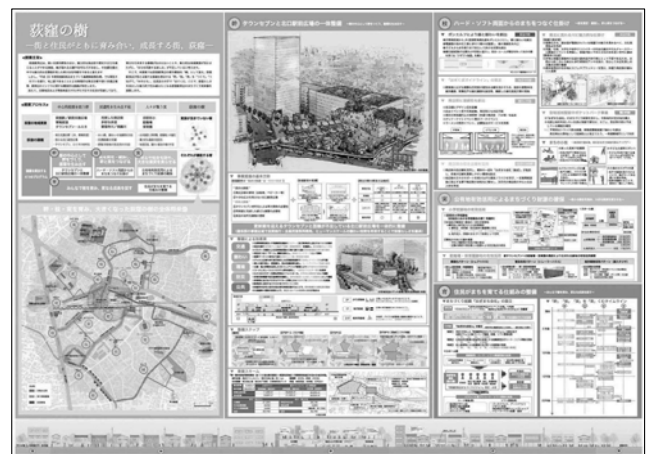
提案番号 (金賞)

佳作作品一覧

佳作	作品タイトル	提案者(所属)
	生活・環境価値の最大化を目指して - ネットワーク化による新たな価値の創出	中川智之(株式会社アルテップ)
	荻窪の樹 - 街と住民がともに育み合い、成長する街 荻窪 - 駅がつなぐ風景	ヒューリック株式会社(提案代表者:鈴木陽祐) 大成建設株式会社(提案代表者:安松智規)
	地下になる、近くなる	阿部佑哉、小野晃次郎、平野文康、山本駿(工学院大学工学部建築都市デザイン学科)
	エキウエひろば	石毛龍、濱田萌、仲川裕里(芝浦工業大学工学部建築工学科) LE GALL RONAN(芝浦工業大学大学院建設工学専攻)
	ゆうきたい ~共に成長する人と街~	川崎泰之、友景寿志(大成建設株式会社設計本部) 内田繁貴、黒江由美(株式会社アーキパートナーズ)
	ふたつのみどりのリングによる荻窪まちづくり	柴田英明、坂場論士、山口暁(法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科)
		田村圭介(昭和女子大学環境デザイン学科田村研究室) 加藤真友、吉永有美子(昭和女子大学大学院生活機構研究科)



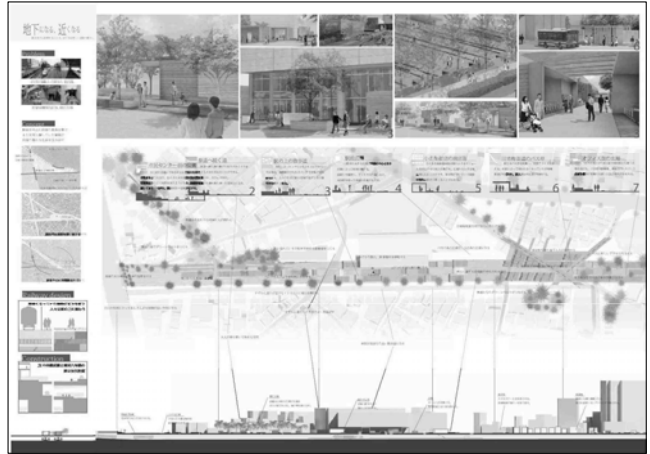
佳作



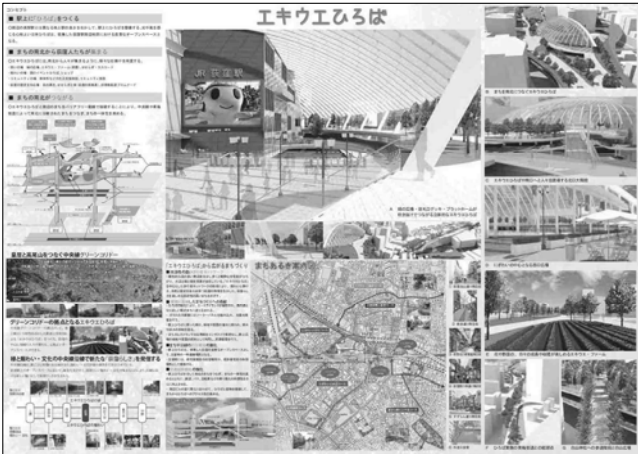
佳作



佳作



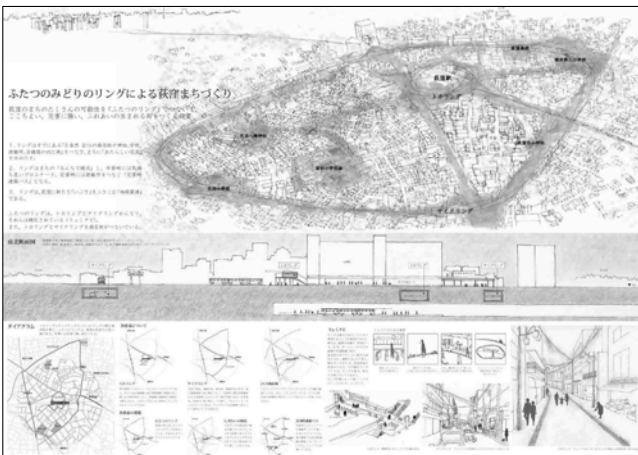
佳作



佳作



佳作



佳作

5 . 最終審査

(1)開催概要

会場： 杉並公会堂 地下2階 小ホール（上荻1-23-15）

プログラム：

時間	プログラム	内容
13:00	開会	区長あいさつ、審査員紹介
13:25	審査	前半3組（各組 プレゼンテーション/質疑応答）
		《休憩 10分》
		後半3組（各組 プレゼンテーション/質疑応答）
15:15	休憩	会場投票
15:35	審査結果発表・表彰式	
15:45	選評及びパネルディスカッション	
16:35	閉会	審査委員長あいさつ、区長あいさつ

(2)区長あいさつ(要旨)

JR 荻窪駅は、開業から 120 年を超える、区内で最も古い歴史のある駅です。現在では、荻窪駅の一日の乗降客数は約 24 万人となっています。また、駅北側では青梅街道と環状 8 号線が交差し、杉並区のみならず東京全体の中でも交通の要所となっており、文字通り荻窪は杉並区の中心という意味合いが強くなっています。

これまで荻窪のまちづくりに関しては、様々な検討がされてきましたが、なかなか具体的な実現には至っていません。周辺の区市に目を向けると、中央線は立川駅までが高架化され、中野駅周辺では警察学校の跡地の再開発が進み、大学の進出やキリンビールの本社移転など、新たなまちづくりが着々と進められています。このような状況の中で、区としては、荻窪の新しいまちづくりが遅れているという問題意識を持っています。荻窪のこれまでの歴史、伝統、そして良好な住環境といった良いところを着実に継承していくことは大事な事です。しかしながら一方で、駅を利用する 24 万人という方々の生活を支える拠点として、時代の変化を捉えて街の魅力を高めていくという努力が必要と考えています。

そこで今回は、地元の方々はもちろん、まちづくりや都市計画の専門家、企業、大学でそれらを研究されている方々に、よりよい荻窪の将来像とその実現のためのアイデアを出して頂きたいと思い、このアイデアコンペを開催いたしました。

なおこの審査は、今後の具体的な事業者を選定するものではありません。今回のコンペは、これからの荻窪の将来像を考えて行くうえで、課題や問題意識を共有し、明確にするためのものであり、荻窪のまちづくりを区民のみなさまと一緒に考えていく契機にしたい、と考えています。本日の各作品の発表や、審査の内容に関して、みなさんでこれからの荻窪の将来について語り合っていただく事を期待いたしまして、私の挨拶に代えさせていただきます。



(3) 提案者の発表と質疑応答

提案番号



作品タイトル

Ogikubo Sharing - 共有する文化が未来を描く -

提案者(所属)

高田康史、小石川正男、保坂裕梨(日本大学短期大学部建築・生活デザイン学科)

<質疑応答>(: 審査員の質問、感想 : 提案者の回答)

非常にバランスのいい発表だったと思います。シェアというのは日本語だと何ですか。

共有だと思います。

中央線や丸ノ内線は従来のままですか。

そうです。

環8や荻窪駅、青梅街道の車の処理について説明してください。

大きな地域の交通拠点(パーク&ライドの共有の駐車場)を複数設けることによって、駅に車が集中せず、交通面は整理されるのではないかと思います。

シェアリングを進めていく上での資源や解決できる課題などを、荻窪に即して具体的に説明していただけると分かりやすいと思いました。

新たな文化として、きっかけ作りになってくれればということが一番ベースにあります。緑やコミュニティーの場と、住まいに関係する空間を共有することで新たに関係性もできていくのではないかと考え、共生共存の中で道路を通すことで、新たな再開発をするのではなく徐々に進展させていければと思います。

中央線は地上のまま、上に被せるという提案ですが、根本的に荻窪駅の今の状況を変えなければ変わり映えしないまちづくりになってしまうのかな、と思いました。また、特に天沼3丁目は昔の農道がそのまま道路になってしまったような感じで、真っすぐな道はほとんどなく、非常に道が狭い。この狭あい道路の解消も大きなテーマですので、素晴らしいテーマを頂いたと思います。

提案番号



作品タイトル

荻窪そらひろば - 街を広場で結び、もっと人を呼ぶ街へ -

提案者(所属)

塚田綾乃、外松浩一(ヒューリック株式会社アセットソリューション部)

<質疑応答>(: 審査員の質問、感想 : 提案者の回答)

非常に楽しいプレゼンだったと思います。荻窪駅は24万人の乗降客があり、区内でも随一の交通拠点としての機能を果たしていかなければならないのですが、交通ターミナルの下に商業を持ってくるとすると、駅周辺のタウンセブンやルミネなどの大規模商業集積との整合性に疑問を感じました。人工地盤とタウンセブンやルミネ、民間のビルとで、お互いにとってメリットになるような複合開発ができるのではないかと考えています。

平面では面積が足りないので、バスターミナルやタクシー乗り場を2階レベルに上げるなど、それぞれを立体的に積み上げていくという提案ですが、非常に坂の傾斜が厳しくなってしまう、この空間の中で本当にそのような交通処理ができるのか、技術的に悩ましいと思いました。

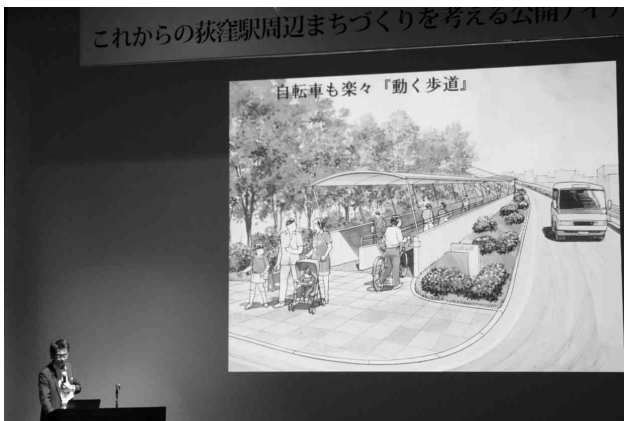
設計上どうにかしてカバーしていける問題かと思っています。例えばバスターミナルであったら高速道路のようにスパイラル状の道を作ることによって解決できますし、歩行動線であったら、登山道のように緩やかな道をジグザグに作る、などのアイデアが今はあります。

鉄道による分断だけでなく、私はやはり青梅街道という、とてつもない交通量を抱えたものが、良い意味でも悪い意味でも、問題を難しくしているのではないかと思うのですが、青梅街道という存在を今回どのように考えているのかお聞かせください。

青梅街道はとても歴史が古く日本、東京にとって大事な道なので、このまま現状を維持することであえて荻窪の魅力として残していけたらと思っています。そうすると青梅街道と環八が上下を通過していることで鉄道は技術的に地下や高架にできませんが、今、鉄道が地上にあるという魅力を活かして開発していけたらと思います。

とても若々しくて夢がありますが、この提案が荻窪でなければならないというところがもう1つ説明がないような気がしました。例えば中央線沿線だと、この提案に対して「そうだ」と言ってくれる市民がいるのは国立ではないかと思っています。やはり荻窪では、広場の設計はもう少し密度が高く、狭い空間をうまくやりくりしてみんなが楽しむ、という場所になるかと思っています。

提案番号



作品タイトル

“ 天空のマルシェ ” & “ 地底のラビリンス ”

提案者（提案代表者）

五洋建設株式会社（提案代表者：小林義和）

<質疑応答>（：審査員の質問、感想：提案者の回答）

住民参加については、ワークショップを多数開催するということですか。

ワークショップに住民が積極的に主体性を持って参加することが大事です。今回の提案ではエリアを開発することを目的にしますが、その後に出てくる「にじみ出し効果」を含めたエリアにも、ワークショップの参加の呼び掛けが必要だと考えます。

バス、タクシー、自転車、一般車、通勤者などの交通網が、どの程度この提案に網羅されていますか。南側に新しくロータリーを設けて、一般車の乗り入れ不便の解消と、ここを拠点として史跡巡りなどのバスの利用も考えています。また東側に南北を横断する道路を設けて、新しくできる駅舎への乗り入れを考えています。駐車場も交通広場に接した人工地盤の下に充てる予定にしています。

荻窪駅周辺で、一般車のアクセスをどこまで便利にしていくべきか、そうでないのかが議論の大きな分かれ道になっていると思います。

車の利用は今後少なくなっていく傾向にあるのではないかと思います。専門家の意見も入れながら今後の議論によってそれは決めていけば良いのではないかと捉えています。あくまで課題のひとつの解決策と捉えていただきたいと思います。私どもは南北の車道の勾配があまり緩やかなものにはならないと計算上、見ておりますので、一般車両を全面的に通行可能とするよりもコミュニティーバス、あるいは地域の中で限定的に運行されるような車両のための道路という位置づけにできれば、ソフトランディングが可能なかと議論しました。

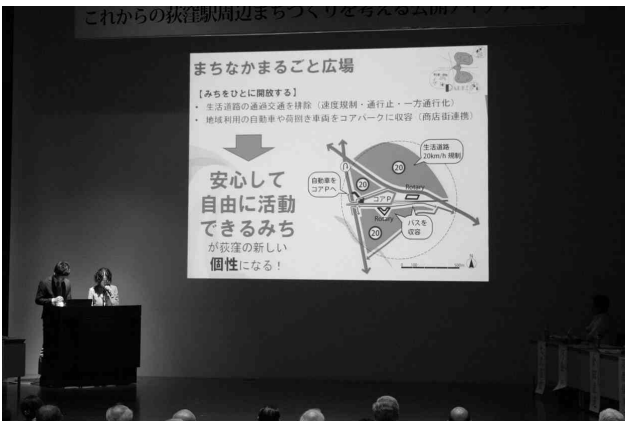
ずばり、ここで想定される市街地再開発の容積率はどれぐらいを考えていますか。

やはりワークショップなどを通じて適正なボリュームは決めていくべきかと思いますが、地上部分の建物の容量は極力抑えていますので、既存の用途地域の200%もあれば十分かと思っています。

「地場産業の再生」は、荻窪で相当面白いと思いました。地場産業の再生はどういう内容ですか。

インダストリーというよりも、ラーメン屋や焼き鳥屋など、学生や教授たちに支持される荻窪らしい商店といったイメージで捉えています。

提案番号



作品タイトル

Park! Park! Park!

車は停めて 駅やまちをまるごと広場のように自由に使い ひとが立ちどまりたくなる おぎくぼ

提案者（提案代表者）

八千代エンジニアリング株式会社（提案代表者：星野武司）

<質疑応答>（：審査員の質問、感想：提案者の回答）

車から荻窪を考えようという視点が他と少し違って面白いです。ただ、パーク＆ライドを積極的に推進しようという需要が果たして荻窪にあるのかが気になります。

最新のパーソントリップ調査から、パーク＆ライドが実現できるとすれば最も都心寄りの場所なのではないか、また幹線道路が近いという可能性もある場所だということで提案しています。バス利用が不便なエリアの人などをターゲットに鉄道利用を促して、周辺の商業施設も使ってもらってまちの活性化につなげられるということで提案しました。

すごく基本的な点ですが、車を中心に考えられていると思いますが、なぜ今これからの時代にあえて駅に車を集中させなければいけないのかについて、お話しいただければと思います。

車の利用を奨励しようという提案ではないことははっきり申し上げておきたいです。荻窪のまちを活性化するために使えるポテンシャルとして、車利用者をこれまで考えてこなかったのではないかと意識です。人中心のまちにするために車をどう活かすかという提案をしたいというのが趣旨です。駅周辺の商店街だけが活性化して、まちづくりにつながりにくいのではないのでしょうか。

駅を中心に色々な方向に歩いてもらえるので、南北の分断も解消しながら回遊性を高めるには、駅に車を止めてもらうのが一番良いだろうと考えました。

駐車場として利用されるだけで終わってしまわないための提案について、お聞きしたかったです。

クリーニング店や保育園など、利便性の高い施設を周辺の商店街にできるだけ配置していくことで、荻窪駅に人が寄ってもらって、そこから商店街へ広がっていくというコンセプトです。この開発の中で商業施設をほとんど増やしていません。地元へのヒアリングから商業施設を増やすより、もっとまちなかでお金を落としてもらった方が良いという話があったので、お金を落とすのはまちを使ってもらう、その受け皿作りというスタンスで考えました。

提案番号



作品タイトル

種をまき、育てる荻窪 あふれる活動、多彩なまちの作り方

提案者（所属）

松永仁、海野沙弥佳、角田大樹（慶應義塾大学環境情報学部）、大沼芙実子、福島絵美、宮川眞海子（慶應義塾大学総合政策学部）

<質疑応答>（：審査員の質問、感想：提案者の回答）

いろいろなイベントや芸術活動が、南も北も荻窪の各所で行われるようになれば、特にハードの作り方等について今から具体的に考える緊急的な必要性はない、むしろ南北の一体の意識を醸成することが重要だという立場に立って提案されているということでしょうか。

その通りです。南北共通の要素を持たせるということを一前提にして提案させていただきました。私たちがデッキを架げるとか地下に通路を作るなどのハード整備を最初は検討しましたが、私たちが荻窪の魅力として感じた細い道やヒューマンスケールで楽しめる魅力に対して、果たして合っているのかという疑問にぶち当たりました。物、空間を作る以前に南北に共通の要素がない限り、南北の分断の真の解決にはならないのではないかと思います。

ハードに依存しないまちづくり、特に文化活動に注目した提案ということで非常に好感が持てます。一方で、提案を具体化していくために、誰がどういう仕組みでやっていけばいいのかをお聞きしたい。基本的には例えば行政の方が主導しつつも市民の方を巻き込んでいき、最終的には行政主導ではなく市民の中で推進していく団体が出来上がって運営していくことで、もっと自由な場所ができるかと思っています。

現実にはかなり個性、特徴がある各商店街を、どのように文化でつないでいこうとしていますか。商店街は、それぞれとても面白くて魅力的だと思いました。ただ商店街を統一したいわけではなく、第三者が商店街を会場としてお借りしてイベントをしていくことでそのまちの要素をつないでいくことを考えています。日常の商店街さんはそれぞれ個性を持っています。このイベントのときだけ共通のテーマを持つという想定をしております。

ここに住む学生さんや、店舗やマンションを貸す地主の説明が抽象的で、「荻窪芸術」とは何かということをお聞きしたいと、根は生えないのではないかと思います。

提案番号



作品タイトル

2つの『コト』が生むまちづくり

提案者（所属）

角田崇一郎、川上義人（株式会社石本建築事務所 プロジェクト推進室）、梶原恒平（千葉大学大学院工学研究科建築・都市科学専攻）

<質疑応答>（：審査員の質問、感想：提案者の回答）

JR線と南北道路のレベルがどうなっているのか教えてください。

中央線は地上です。歩行者は、中央線と青梅街道沿いに高い建物が建っていますので、その1～2階を利用して、南北連絡通路のアクセスを確保します。

「まちなか公民館」とは、その場所で何をするか、ワークショップでみんなで話し合って決めていくというイメージですか。それは今、使われていない建物があるからという想定ですか。

まちなか公民館だけではなく、まちなか保育園など色々な施設を想定しています。萩原らしい場として、商店街の空き店舗や小中学校などを、まちとして一体的なデザインにしていきたいということです。南北で歩いている時に一つの街のストーリーがあると感じられるように、まちの皆さんで1つのデザインコードを作り、いろいろな場所をつないでいくという、まちの回遊性があると考えました。南北通路の位置ですが、例えば駅や駅前広場というポテンシャルを活かすと、本当はもう少し違うところに南北通路があった方が良くはないのでしょうか。JRの改札口との関連性も踏まえた南北通路にしないと、真の分断は解決しないのではないかと考えています。

街をつなぐという意味では、商店街と商店街をつなぐ良い場所になるのではないかと考えています。いずれ生じるタウンセブンの更新をターゲットにすることが、ハードの面での南北をつなぐ一番いい道だという前提と思いますが、小さな出来事と言葉を各所で起こすという活動が、ハードにどのように結び付いていくのでしょうか。

南北をつなぐ空間整備には10年～20年かかると思います。その20年の中で地域の皆さんと良い関係性が結べたら、そのつながりで提案ができるのではないかと考えました。

非常に明快ですね。ただ、タウンセブンの建替えでできる南北通路の具体的なスケッチがなかった。正面入り口はどこかという駅の原則はそう簡単に変えられないです。そこをどうするかという説明があるとすごく良くなったと思います。

(4) 選評及びパネルディスカッション



最終審査でプレゼンテーションをしていただいた作品の選評と、今回のアイデアコンペを通じて感じられたこと、今後の荻窪駅周辺まちづくりの展望や考えていく上でのヒントなどについてお話しいただきました。

審査において重視した点

伊藤審査委員長（進行）（以下、伊藤委員長）：まず初めに、先ほど金賞と銀賞が選ばれましたが、それぞれの先生のお立場で審査の重点が違っていると思います。この審査で重視したことと着眼点、重要だと思ったことを一言ずつお願いします。



今村委員：荻窪駅は今の地上1階を電車が走っています。これを高架にするのか、地下1階あるいは地下2階にするのか。荻窪駅が現在のままで大きな改革ができないのではないかとこの考えを私は今でも持っています。そして、青梅街道とJRという大きな幹線がありますよね。天沼陸橋あたりからの改造がどういうふうを実現するのか、事有るごとに地域では大きなテーマになってきたものですから、その点もコンペで提案が出されるといいと思っていたのですが、今日の6点を見るかぎりいまいち道路とJRの関係は触れていなかったの一人一人の方に「JRは荻窪駅のどこを走るの？」と聞かせていただきました。そんな観点から、大きな改革に向かうには今日のコンペのアイデア以上に一歩進んだかたちでやらないと、まちづくりも代わり映えはないのではないかと感想を持ちました。



大沢委員：今回の審査のときに重視した点が3点ございます。1つは公益性です。「荻窪駅を中心とした半径500メートル」の中でいかに全体を楽しくさせようとしているのか。その中にいかに笑顔を生みだそうとしているのかという点を重視しました。もう1つは青梅街道と環状八号線です。この環状八号線は各高速道路を結んでいますし、東京において非常に重要な幹線道路です。こういうものをいかにとらえているか、その点を重視しました。

次は分断性をどのように解消させようとしているのか。JR中央線の話がどのアイデ

アにも多かったのですが、青梅街道の片側2車線、全線4車線によるとてつもない交通量と地域の分断性について考えなければいけないのではないかという点。鉄道だけでなく、道路との関係性をどのようにとらえているのかといった点も重視しました。

それからもう1つは実現性という観点です。今回はアイデアコンペということだったので、この中のちょっとずついいものを拾っていったら10年後、20年後、30年後、すてきな荻窪駅、笑顔があふれる荻窪にしたいと思っています。その中でやはりアイデアの実現性、つまり技術的、構造的に大丈夫なのかと。いくら素晴らしい絵が出て実現性のときにハテナが出てしまいます。この3点を重視して審査しました。



河島委員：全体で72件応募があったことに、私は荻窪はすごくみんなから注目されているのだと思いました。前に行われた第1次審査のときには、もっといろいろな作品の提案についてわれわれはよく見せていただいて、今日の6点が選ばれ、直接プレゼンテーションを受けたわけです。その中で今日は車や人、自転車をどう取り扱うかという論点、それからハードの整備をどう考えるのか。そのハードの整備とまちのよさにどんどん着目して荻窪がさらに魅力的なまちになっていくようにしよう、というソフトとハードの取り組み等をどう考えていくのか。それから、南北のつなぎ方として今村さんはぜひ鉄道の立体化を念願しておっしゃっていましたが、非常に構造的に難しい中で、2階以上で南北を結び付けるのか、あるいは地下で結び付けるのか。そういったところがこれからの荻窪の将来を考える上での極めて重要なポイントになるだろうと思っています。今日の6つの提案はそういった点でそれぞれの特色があったのではないかと思います。



倉田委員：今回のコンペを拝見して、今日残った6作品だけではなくほかの72件の提案の中にもアイデアとしては非常に優れたものがあったと思っています。そういう意味では今後このアイデアコンペを活用していただくなかで、今日、発表された6作品だけではなくほかの作品の中からもいろいろなアイデアを活かしていただけたらと思っています。

今日、私自身が評価するにあたって特にどういう視点を持ったかということですが、1つはまちづくりとして地域全体をどうやってより魅力的なまちにしていくかという視点です。もう1つはその視点と関連しますが、どこまで荻窪らしさ、荻窪の持っているアイデンティティ、魅力というものを今後も維持、発展させていけるかという視点です。この2つは非常に大事だと思っています。それからもう1つは具体的な提案として、南北の分断をどのようにとらえているのかという視点。それについては非常に興味を持って今日は聞かせていただきました。特に南北をつなぐとは具体的にどういうことを意味するのかと、今日提案の中には、非常にハード的に難しいですが、大きな地盤を架けてそれをもって地域をつなぐという提案もあったように思います。そういった提案は非常に夢のある提案だと思いましたが、場合によっては100メートル以上もある大きな土木構造物ができるわけです。動線的に人の流れとしてつなぐことになるかもしれませんが、逆に言うとその大きな土木構造物がさらに2つの地域を分断してしまうのではないかと。そんなことも少し感じました。私自身は実はハード屋で

もあるので、そういったハード的な提案として荻窪ではできない、ハード面ならではの提案が出てきたらという期待がありました。そういう点ではハード的に魅力を持った提案がなかったというのが正直な全体の感想です。



須磨委員：アイデアコンペでいろいろな提案がありプロフェッショナルな方がものすごく熱心にこの地域のことを考えていて、これをきっかけに多くの方が荻窪に注目したという点がこのコンペの一番いいところではないかと思っています。私が今回の審査で一番中心に考えたのは駅開発ではない、ということでした。駅を開発するだけではまちはあまり変わらないだろうから、今回のアイデアコンペは駅前開発、駅周辺がポイントではないかと思い、そこを中心に見てきましたが、駅開発が多いというのはすごく残念なところでした。また、0からのスタートとは言いませんが、これから新しいまちを作るという発想が割に多いかなと思いました。荻窪は歴史のあるとてもすてきなまちだと私は思っていますので、その荻窪の良さをストーリーとして取り込み、そこから新しいまちを作っていくという発想がないものかと思いながら皆さんのプレゼンを聞いていました。それから地域の広がり、もっと駅前から、周辺からもっと先に広がっていくような、この地域全体が輝くきっかけになる新しいアイデアがないものかという点も1つのポイントでした。その点がちょっと少ないと思ったのはとても残念でした。また、夢のある発想がとてもいろいろあったのですが、私はハードの専門家じゃないのでこんなこと本当に可能なのかなと、見ていてすごく楽しいけれど、でもあれだけの距離をこんな緩やかなスロープでは無理ではないかなとか。そういうことでちょっと点数が低くなったところもあったりしました。計画を立てるには、いくらアイデアでも実現しないようなものでは良くないだろうというのが1つ審査の基準になりました。ともかく、いろいろなところに広がっていくアイデアであり、そして実現性があり、荻窪らしい歴史を踏まえたストーリーのあるものを中心に審査をさせていただきました。



伊藤委員長：ソフトとハードの両方から、いろいろ主張がありました。ソフトの面で思ったのは、荻窪が魅力あるためには乗り降りのお客さんを多くしなければいけないという事です。今までの24万人の乗降客が、将来は30何万人になるとすると、荻窪が魅力あるまちであるためには、駅の周りがあのもままでいいかどうかは大問題で、それをソフトのグループは一生懸命考えてくれました。一方ハードでは、今の荻窪はあんなことでいいのかということを考えてくれました。特に北口は汚いです。中央線の中で一番汚い駅前広場だと思います。あれを直すのは杉並区民の責任じゃないかと思います。これはやはりハードの問題ですよね。将来あそこで35~36万の乗降客が降りるようなソフト作りをやるんだから駅を直すことも十分できるんだというハードとソフトの両方の組み合わせのバランスが大変大事ではないかと思い、その点について一生懸命見ました。

各作品に対する評価

伊藤委員長：次に金賞と銀賞それぞれ6つの作品に対しての委員のご感想を聞きたいと思ひます。金賞3組についてお2人ずつ発言していただきたい。

倉田委員：私も提案番号 は一応高く評価しました。質疑応答のときには荻窪らしさはどうなっているのか、と荻窪という場所に対する必然性みたいな話を少ししました。ただ、提案内容として、シェアリングという考え方を基本として、それを3つの要素で考えるという考え方、アプローチはやはり非常にバランスが取れていて評価できるのではないかと思ひます。そういったシェアリングの考え方の中に実際に荻窪が持っている現実の資源をうまく位置付けていけば、こういうアプローチで荻窪らしいまちが結果としてできるだろうと思ひます。ソフト中心ではありますが、あまり過度にハードに依存しなくてもこれだけのことはできるんじゃないかという意味での提案としても非常に高く評価しました。居住の話も扱ってしまし、幅広いまちの要素を取り扱っているという点でも非常によい提案だったように思っております。

伊藤委員長：この提案番号 はほかと比べて密度が倍ぐらい濃いです。あらゆる疑問・質問に対して答えられるような答えが全部入っている。それから写真を入れたこのレイアウトはプロの仕事です。だからこれを作ったのは学生だけじゃないのではないかと想像する。要するに抜群なんです。ただ、抜群に細かく書き過ぎたから何を言いたいか分らなくなりました。何を言いたいかははっきりしているのは提案番号 「荻窪そらひろば」です。 はもう明快で、何がいいかといったらシェアリングです。シェアリングと言わないで日本語で共有と言ってくれたほうがよほど分かりやすいです。何で建築の学生は格好をつけて分からないようなことを言うんでしょう。だけど共有という言葉をもって全部を説明するにはずいぶん弱いです。要するに全部書いたけどパンチ力が弱いというか明快じゃなかった。しかしこの提案の図を見てもものすごくリアリスティックです。荻窪の駅舎の南北自由通路がタウンセブンの横に描いてあるでしょう。それから東側にも小さいが荻窪のタクシー駐車場の辺に狭い道があるんです。これは相当、エネルギーを使って細かく描いてある。行政が一番この提案が使いやすいだろうというのが僕の感想です。

伊藤委員長：では次、に提案番号 「“天空のマルシェ” & “地底のラビリンス”」についていかがですか。

大沢委員：1次の審査から非常に心に残った作品です。1つはやはり荻窪駅というところにコンパクトに集中していろいろなものを作って、そこにまず拠点性を作ろうという提案です。逆にそれだけだったらたぶん心に残らないのですが、そこを中心にしてまちの中にいろいろなものが「にじみ出し」てくる。また周りのまちを全体的によくしていこうという点が非常によかったです。やはり一番大事なのは、実現性の面で荻窪の駅周辺はコンパクトにいろいろまとまっていることです。それが荻窪ら

しさだと思うのですが、逆に言うとハードを作るときが一番難しいのではないかと思います。これを技術的に柔軟性とか、先ほどのお話もあまり高い物を建ててしまうと逆にこれが南北の壁になってしまうということがありました。縦断の課題があることを認識をしつつも、やはりこういうことが一番いいのではないかという提案でした。その点が私は一番印象に残りました。ただ、1つ考えなければいけないのが自動車の取り扱いです。今はいい意味で南口の住宅地の中にあまり車が入っていかない構造になっているのですが、この提案は南に新たに鉄道と自動車の窓口を大々的に設けようというもので、南口の今の住環境に及ぼす影響が実は一番心配です。そういった意味で、他の提案にもあったのですが、今までのように自家用車を駅前広場に大々的に入れるプランが果たして荻窪という土地にいいのかというのは実はちょっと悩みではありました。けれども、このにじみ出しなどの荻窪の駅周辺のコンパクト性と、縦断的なつらさも少し分かっている、という点でこれを評価しました。

河島委員：私は質問でも申し上げましたが、車に対するスタンスがどうかと。青梅街道から南口に車を引き込みながら今の南口の通過交通のないところにどんどん車を増やしていくというやり方、これはこれからも議論していく重要なポイントなのではないかと思います。再開発事業を前提に容積はどのくらいで考えているのかと他の審査員の方の質問にもありました。事業規模としてはちゃんと提起されていたけれど、200%という容積率で再開発事業が成立するだろうか。今の荻窪の容積率ももっと高い容積を駅周辺で使っています。ですから事業にしていくためには全然違う事業手法を想定しないといけない。ただ、鉄道が上にも下にもいけないときに上空でつなぎ、そして地下でもつなぐのだと。そこに南北の分断を解消していく空間がまだあるじゃないかということを確認して提案をされたのだらうと思います。当たり前かもしれないけれど強くそれを意識して空間をつなぐことによって荻窪の将来の構造を作りだしていこうという提案として、私は評価できるのではないかと思います。

伊藤委員長：それでは提案番号 について何か感想ありますか。



今村委員：基本的にまちづくりをどうやるか。ちょうど荻窪駅から500メートルの半径で一周りすると、若杉小から杉五小の手前、それから天沼陸橋、大田黒公園、荻窪高校や保健所、それから環八と東電があります。そのぐらいがいわゆるまちづくりの範囲に入るのでしょうか。その範囲まで考えないと道路の動線も、それから鉄道の高架化、地下化はできないと思います。これをやるには大変なテーマがたくさん出てきます。

しかし考えとしては、これをやることによって南北の解消ができるのではないかと。また、荻窪駅前を地下利用し、「天空のマルシェ」という言葉がありましたが地上へ人工地盤を張って分断を解消すると、天沼陸橋の解消がうまくできるかできないか。荻窪駅だけだったら上を改造するのか下を改造するのか。いわゆる重層化計画をしない

とできない。

私はよく言うのですが、終戦から荻窪は変わっていません。中央線は高架化されてきましたが、阿佐ヶ谷駅と西荻駅の間で荻窪駅だけが地上を走っています。本日のパンフレットの2ページにも書いてありますが、平成23年に行ったアンケートで荻窪駅の不満点は、駅近くに駅南北を渡る道路がない。これが51.9%回答されています。戦後67年経っても荻窪駅だけが地上線を走っているために変わっていないのです。一にも二にも荻窪の南北を改造しよう、重層計画をやろう、道路は何とかならないの、こういう悩みのジレンマに陥っているのですが解決の糸口がない。今日ここでアイデアコンペがあり、私も72作品をしかと見せてもらいました。実によくくなっている。しかし実現可能性のあるものかどうか。それからあまりにも抽象的で理論的でこれはどうにもならないという感じもあります。その中でより優れた6点が選ばれたわけですが、そのアイデアはおそらく荻窪駅の駅前南北の解決策かと思っております。先ほど言ったとおり、もっと突っ込んだ地域改造ができれば良いのかなという考えです。



須磨委員：提案番号 の評価が高いのはやはり実現可能性が高いということではないかと思っています。非常によく計算されていて、ここで可能なことは何だろうか、このまちは何だろうかということがよく説明されていました。やはりプレゼンの仕方もあると思いますが、それで評価されるのではないかと思います。その辺がよく考えられていたから評価されたのではないかと客観的に思っています。

伊藤委員長：提案番号 は提案番号 と対極的です。提案番号 は何でもかんでも書いてあります。提案番号 はある意味で分かりやすく手抜き工事をやっています。ここでの説明もものすごく分かりました。狙いはタウンセブンの建て替えでいくぞと、これを頭に入れておいてくれと。しかし2つの街があるということは分かるでしょう、みたいな説き方。天沼陸橋が大問題だという、この説明も非常に分かりやすいんです。それから新しいまちを作るための3つの鍵という考えは整理としては非常に狡猾です。言ってみれば誘導する、われわれの考えを引きずっていきます。これはうまいです。この提案番号 の3つの図面は分かりやすいのですが、反面本当かと思えます。要は仕組みを整えるために協議会を作りなさいということでしょう。これは簡単・明確です。それから「点」を整備すること、つまり500m圏域の中で魅力のあるものをいっぱい作る。そうすると乗降客は24万から増えるだろう、という最後にその点へ連続させるので明快です。20年後、タウンセブンを更新するからこの勝負は20年ものであると。ものすごく手抜き工事だけど芸達者です。提案番号 のほうはコツコツ書いたんです。提案番号 は名人芸でやっています。そういう旨味がありますよね。では、銀賞で何かお気付きのことがございましたら、どうぞ。

河島委員：「Park! Park! Park!」という地下に駐車場を作る案は、それに合わせて歩行者、自転車はどうなるのかという点で少しはっきりしないところはありませんが、

歩行者が南北広域的に歩ける通路を作ろうという提案です。構造的には環八につなげる構造になっており、その点は別の考え方を導入できるかどうかを検討しなければいけないかもしれません。説明の中ではパーク & ライドという言葉を使ってしまったために、この提案は車を中心の駅に引き込むと受け取られていたようですけれど、これは車を今よりもより引き込まず、錯綜しない状態を作ろうという思想だったと、うまく説明出来たらもっと評価が高かったかもしれません。ヨーロッパの都市なども今は中心部に一般車をできるだけ引き込まない。そのためにあえて路面電車をもう一度整備し直したり、そういうまちづくりを行っています。この荻窪の駅周辺は通過交通をさばく幹線道路が青梅街道と環状八号線の2本があります。この2本があるが故に、住宅街の中を通り抜けるような車は入り込まないで済んでいる。今の北口で言えば教会通りなどに車が入ろうとしても入れないわけです。それから南口は昔の区画整理によって楽々すれ違える結構しっかりした道路があり、先ほど申し上げたように通過交通は入りません。むしろそういう特質を積極的に活かして、提案の中にあつたような荷さばき車をどうするのかなど、車に対するスタンスをうまく決めていけば良いのではないのでしょうか。そういう荻窪のよさをうまく活かして、歩行者が歩いて楽しい、そういうまちにしていくという考えが、「Park! Park! Park!」の提案の中には含まれているような気がします。そういう発想は大事にしていくべきじゃないかと思います。

倉田委員：提案番号 は非常に学生らしい提案で好感を持ちました。細かいことを実現する保証とかいうことは別にして、やはりこういうことがまちの中に起きたらいいなと、そういうイメージを中心に展開しているところで、ある意味では荻窪らしいところを非常に大事にした提案かなと思いました。これは少し仕組みとかそれを支援する体制は必要だと思いますが、ある意味ではここで出ているアイデアの1つを取ってみても明日からできる、あまり肩に力を入れずにできる提案ではないかと思います。こういうことでもまちは十分変わると、特にその種をまき育てるという発想はまちづくりの基本的なスタンスではないかと思って非常に好感を持ちました。

伊藤委員長：要するに荻窪は土着なのです。土着の人たちが住んでいて、おじさんたちに、孫みたいな若い娘が、「まちの中で勝手なことをしようよ」「そうすればこう変わりますよ」という事を言っている報告書なんです。そう思って見えています。学校、学校とずいぶん言っているけど、そんなにここに学校は来ないと思いますが、これは荻窪土着から外へ目を向けて「おいで、おいで」と言ったらこういうことが起きるかもしれないというのが提案番号 です。だけど駅のことは一言も書いていません。

提案番号 が物議を醸すんです。提案番号 を少し議論しましょう。

一般の皆さまの投票では投票総数が一番多いです。これは面白い。アイデアコンペの「アイデア」を、「できもしないけど住民の願望を描いてくれた」という意味で解釈すればこれが一番ウケているんです。だけど僕たちから見るとこの絵は漫画です。普通の方から見たら「漫画でも夢がはっきりしているからいいじゃないか」でしょう。

だからこれはある意味で皆の投票結果が専門家に対してボディーブローのようにドーンと突き付けられたということです。これをどう考えたらいいでしょうか。



河島委員：この提案は次の「“天空のマルシェ” & “地底のラビリス”」と本質的にはそんなに違いはないだろうと思います。私は質疑応答でも少し言いましたが、現実の事業の中ではこういう風に作って果たして集積というものが保てるだろうかという話が必ず生じます。そうすると、ここまで広場を緑で埋め尽くさなくてもタウンセブン、ルミネを建て替えて商業床をちゃんと維持するぐらいの建物を、この広場のどこかのコーナーに配置するとか、そういうふうに行くと成立する可能性があります。

これは全体で何ヘクタールになるのかわかりませんが、要するにこれだけの広場を駅の上に載せないといけないという何か荻窪の絶対的要請があるのかどうか。そうではなく荻窪の集積を活かして24万人、さらには今後増えるかもしれないその人たちに對してより便利で、そして空間的にもゆとりある緑も感じられるような空間を提供するという提案だったら十分成り立つかもしれません。ただ、審査側の人間は現実性を少し強く意識してしまうと、これはアイデアとしてはあり得るが現実的には難しいという感じになるかと思います。私は決してこのすべてが否定されるべきことではないと思います。

大沢委員：私も真ん中にこれだけの緑があって非常に魅力的だな、中央線の中でこういうのが初めてできると非常に楽しいな、と思いました。僕は今、荻窪じゃなくて板橋に住んでいますが、これができたら引っ越してくるだろうなと思いました。やはり縦断で考えたときに、コンパクトに集積された青梅街道と中央線間の空間にこれだけの建物が果たして合うの、縦方向も高さ方向も少し周辺の雰囲気と合わないのではないかというのがあります。質問でもありましたがバスを2階部分、だいたい6mぐらい上に上げなければいけない。そうすると今の構造だと6%の勾配なんてたぶん取れないと思います。6%を取ると100mの車道が必要となってくるので、非常に厳しいと思いました。あとはこれだけの壁、高さが必要なのかなと。場合によってはバスを地下に埋めて、もっと低くしたらこういう例もあってもいいじゃないかと思います。そういった意味で高さとのつなぎということで非常に楽しいと思いましたが、その点だけがちょっと心に引っ掛かった点です。

須磨委員：先ほど少し言いましたが、なだらかなスロープだったら素晴らしいなと、私も引っ越してきたくるような夢のある提案だと思ったんです。青梅街道とあの空間でこんななだらかなスロープにしたら道路を背の高い車は通れないだろうとかそういうことをつい考えてしまうと、何かその辺も考えた提案にアレンジしてもらえばいい夢が活かされたかなと思うととても残念です。

倉田委員：先ほども言いましたように非常に夢のある提案であると思います。特にこの絵の中に込められた、各部分のパーツに関して言えばそこで実現したいことは非常によく分かります。この大きな絵を見るとちょっとだまされてしまって、実はもうちょっと引いた全体の街タネマップという図がありますが、それを見てみると、やはりこの街や道路がどういうスケールで成り立っているかが分かると思います。上から見ると広場と書かれていますがこれは非常に土木的な構造物で、言ってみればこの大きさの建物がドーンとあり、屋上が緑になっていると言えます。そう考えたときにやはりこのスケールは荻窪ではないんじゃないかというのが実際の私の印象です。細かいことを言えば確かにスロープを青梅街道からここまでこんな簡単に、上れるのかなとかそういう疑問はいろいろありますが、夢はあると思います。

今村委員：これだけの広さを今現在の地上に載せるわけです。荻窪駅の立体化、いわゆる天空の広場を作るわけですが、こんなに広い街を作らなくても、実現は大変です。教会通りの入り口、八幡通りの入り口、それから荻窪高校入り口、すずらん通りがありますが、これは莫大な面積の土地です。荻窪がそっくり入ります。また、東西にしる、南北にしる荻窪の場合は距離がないのでスロープを作るためにはこのぐらいの距離が必要だということは分かります。緩やかな坂道を作るという点では賛成ですが、ここまでの必要は全然ないのではないかと思います。

伊藤委員長：僕は平面図は面白いと思いましたが、やはり意地悪な歳になったので、断面図で、ここまでやらなくても一番上の緑をはがすとバスターミナル、コンコース、ひかりの池、デッキテラスがあるでしょう。これだって南北に行けます。そうするとずいぶん安くなります。そしてこの車寄せまでエスカレーターがあるでしょう。これを南北の連絡の通路にして、ひかりの池からエスカレーターにしたら、一番上のかぶさるものはいらなくて済みます。

それからもっと本質的なことを言うと、ここを商業的な核にするというのは分かりませんが、デパ地下がないんです。デパ地下が一番荻窪でも吸引力があるんです。やはり商業的な話題で「ここが勝負」というものが図面に入っていません。そこが思い至らなかったと。この自転車道の下丸ノ内線のホームのところにもう1回地下を深く掘って、ここにデパ地下を作れば絶対客は来ますよ。ちょっと意地悪なおじいちゃんの発言です。

これからの荻窪のまちづくりについて

伊藤委員長：これからの荻窪のまちづくりについてぜひ一言ずつ、今村さんからお願いします。

今村委員：20年、50年かけて何か実現できる方向へ持っていきたい。平成23年に取ったアンケートも「駄目だ、駄目だ」と言うばかりで何も解決していません。50年、60年たって同じことを言っても解決しない。それは駅の改造1つに尽きるのかな

と、そして南北を開通することに尽きるのかな、こんな思いでまちづくりに臨みたいと、思っています。よろしくお願いします（拍手）。



大沢委員：作品番号 の言葉を借りると、今日だいぶ大きな種はまかれたんじゃないかと思えます。これを育てるのか、枯らせてしまうのか。それも含めてこれからの動きは非常に大切ではないかと思えます。大きな木に成長して枯れてしまうといけませんので、これからずっと荻窪が 50 年、100 年、500 年と楽しく、絶対ここに住みたい街になってくれることのきっかけではないかでしょうか。

そういった意味でこれから荻窪というスケールをうまく活かした楽しい笑顔があふれる街を考えていければと思っております。どうも今日はありがとうございました（拍手）。

河島委員：荻窪という街をまちづくり・都市づくりといったような目を見たときには丸ノ内や副都心の開発のようなところとはやはり違います。地域の拠点としての荻窪の特殊性を活かしてどう発展させるのか。そういう意味で、特にソフトのいろいろなまち興しの提案は、それ自体で本当に南北がつながるかなと、つい思うので選ばれなくなってしまう。けれど 72 の提案の中には荻窪を活性化の方策、音楽を核にとかアニメをもっと活かしたらどうかとか、いろいろありました。街に対して「こんなことをやったらいいんじゃないか」という提案がこれだけいっぱい出てきた。今回の提案でいろいろなアイデアが出たので、ぜひその関心を持っている人たちを集めて、荻窪を活性化して、自分たちでよく見てもっと楽しくしようという取り組みができるのではないのでしょうか。ただし、うまく束ねる人はいったい誰かということも大変です。あまり区が前に出過ぎず、でも必要な応援はしながらそういう荻窪のまちをソフトな、あるいは一つ一つの取り組みで活性化するというアイデアはどんどん実現に向けて動いていいのではないのでしょうか。

非常に難しいのはやはりハードのまちづくりの方向性をどうするかです。これは地下で結ぶのか、地上で結ぶのか、車はどうするのか、など同じ方向に足並みをそろえるのは難しいわけです。ここはやはり区のほうで相当汗をかいていただいて地域の皆さんのご意見を聞き、ハード面でのまちの方向性をまとめていくかということをやってもらわなければならない。それと並行して活性化につながるいろいろな取り組みを大いに皆さん中心にやっていただく、そういう芽をどんどん伸ばしていくことで荻窪がこれからとてもいいまち、ますます活気のある魅力あるまちになっていくんじゃないか、そんなふうに期待しております。今日はありがとうございました（拍手）。

倉田委員：私自身も今回出たいろいろなアイデアをどうするかたちで活かしていくかは非常に大きなテーマだと思っております。今回のコンペを通してある意味でいろいろなメニューが目の前にそろったわけですから、やはりこれからは地域の皆さんがそれをどう選択してまちづくりにつなげていくかということだろうと思っております。私自

身は、たまたまですが荻窪の今回の課題になっているところを対象に、これまで4～5年、毎年学生たちといろいろやってきております。やればやるほど感じることで、やはり荻窪は住宅都市としての魅力が非常にあるということです。そういう意味でまちの魅力が駅の周辺に必ずしも現れていないところに問題もあるのかなと思ったりします。どこか違うところから何かを移植してそこに新しいものを作るというよりは、荻窪の持っている資源あるいはそういうポテンシャルを活かして、ほかにないまちを作らなければいけないんじゃないかと思っています。今回はそういったまちを作り上げるためのいろいろなメニューが出てきたように思っています。ソフトだけでなくハードについても、もう少し知恵があるんじゃないかと思います。これから特に杉並区さんのほうでは荻窪にかなり力を入れてやっていこうというお考えのようですので、ぜひこれまでになかった荻窪でしかできないそんなまちを作るべく、体制も非常に大事ではないかと思っています。ぜひ今回出てきたアイデアが具体化できればいいと思っています（拍手）。

須磨委員：まずどういう現実が起きていてどんな考え方があるかというのを提示するのがメディアの役割だと思います。なぜ提示するのがいいかというと、そこからみんなが考えだすからだと思います。まちづくりはぼんやりと考えて何となく話して、「でもちょっと難しいよね」で終わってしまうことがすごく多いような気がして残念に思っていました。今回のアイデアコンペですごくよかったと思うのは、実際にたたき台がいっぱいできたということではないかと思っています。プロの先生が言うことで、いいと思っていたけどそういうデメリットがあるのか、とかそれは難しいことなのか、でもこれは活かせるのか、ということなど、自分の頭が整理できることがコンペの一番のいいところではないかと私は思っています。今回は皆さんが考えてくださったたたき台がいっぱいあります。また今回の一次審査通過作品以外の作品にもさまざまなアイデアがこもっていますので、それを一つ一つ精査していろいろなチームを作って考えていくと、その中からもしかしたらすてきなアイデアが生まれるのではないかと期待しております。ぜひいいまちを皆さんで作っていただきたいと思います。区の方もそういったたたき台を上手に拾い上げるような努力をこれからしていただければ、今回のことがものすごくいい起爆剤になるのではと思っています（拍手）。



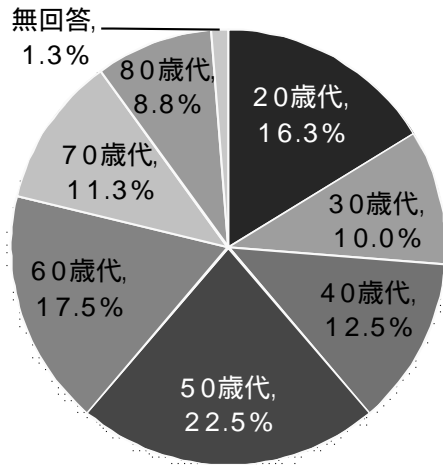
伊藤委員長：最後ですが、これはものすごくいいパンフレットです。たぶん荻窪の将来を考える種は全部この中に入っていると思います。これをぜひ仕事にしたい方は繰り返しご覧になって、あとは区役所に行って担当課長などと話をすればきっと面白いことが起きますよ。どうも今日は長いことありがとうございました（拍手）。

(5) 来場者アンケート結果

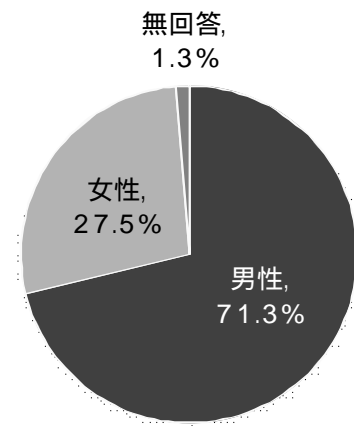
対象者： 公開コンペの会場来場者（184名）
回答者数： 80名（回収率：43.5%）
実施方法： 受付時に配付、退場時に回収
回答方法： 記入式

(以下、～ 回答数:80件)

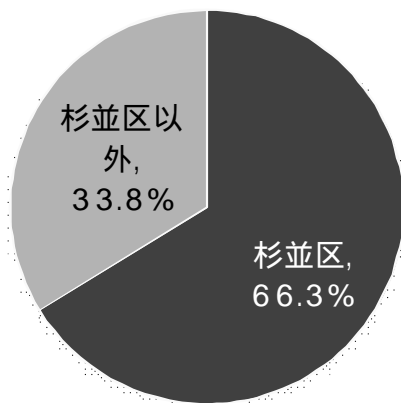
年齢



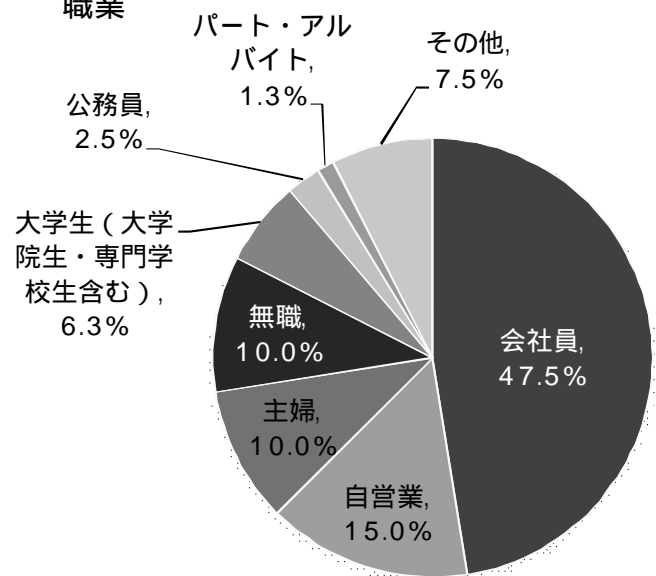
性別



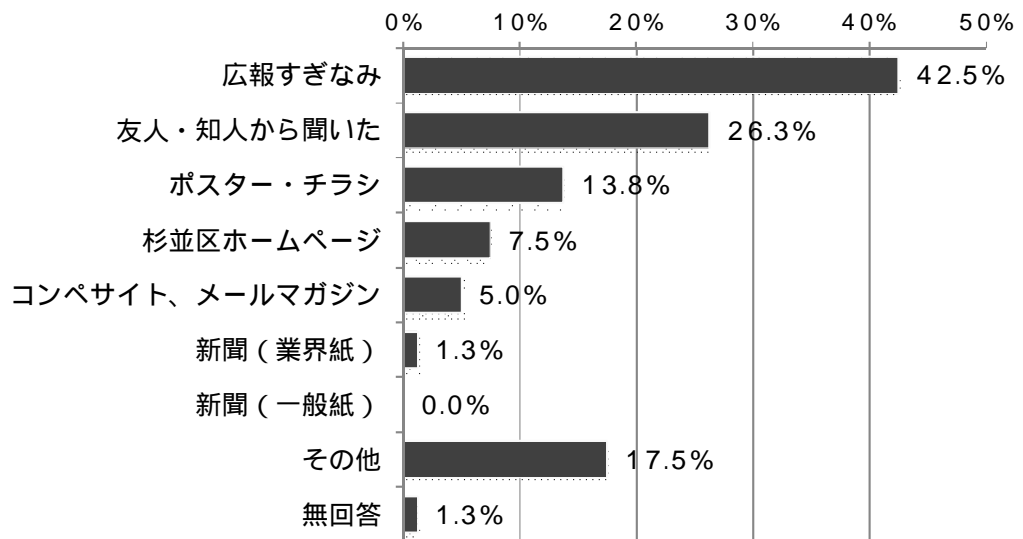
お住まいの場所



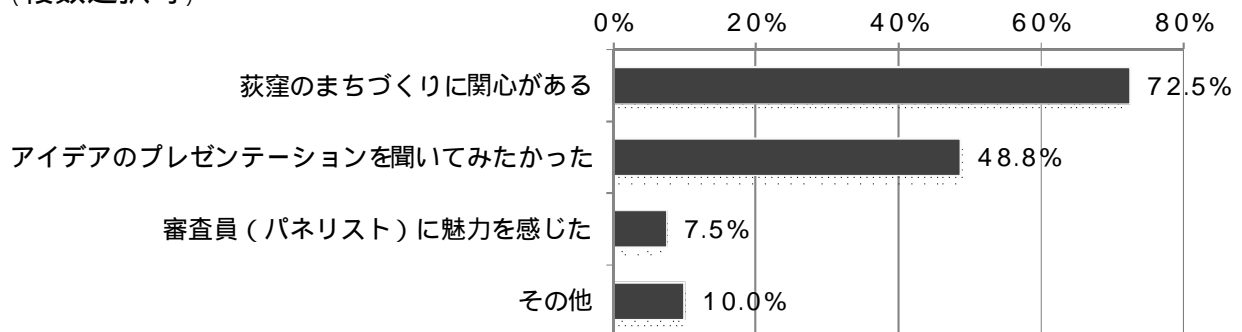
職業



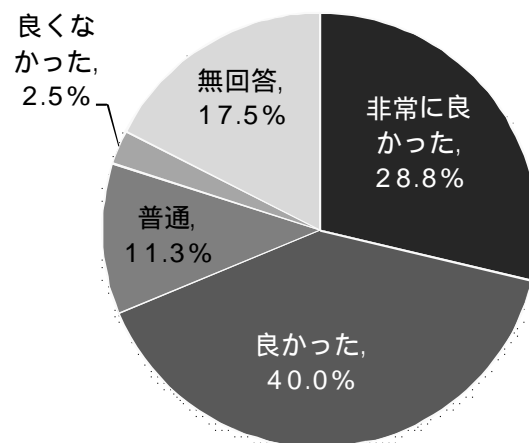
イベントを知ったきっかけ
(複数選択可)



最終審査への参加理由(動機)
(複数選択可)



最終審査の内容



アイデアコンペに関して（主なご意見）

<全体に対する意見・感想>

- ・学生の方から建築業界、コンサルタントの方々と幅広いアイデアの提案で、楽しく聴く事が出来ました。今後も続けてほしい。
- ・各アイデアの発表により、荻窪の良さとは何か、変える必要があるもの、変えない方が良いもの、など改めて考えるきっかけとなった。

<まちづくりへの反映について>

- ・地域の人の関心を引き付け、課題を共有する試みとして、非常に有効だったように思います。これをどう今後の進め方に反映させていくか、頑張っテプログラムしていただければと思います。
- ・将来の荻窪について各チームのアイデアが参考になった。このような企画で、市民の街づくりへの関心が高まり、方向性が自然と出てくると思う。

<提案内容とプレゼンテーションについて>

- ・審査員もおっしゃっていましたが、どの提案も日本のどの都市に持っていっても、受賞しそうな提案だと感じました。荻窪の特性・魅力は「ヒューマンスケールの細やかな表情を持ったまち」ではないでしょうか？どれも素晴らしい提案ですが、「ミニ新宿」「ミニ国立」が出来あがっても仕方ないと思います。
- ・ソフト的な提案が豊かだった。しかし、区が抱える様々な問題を解決するには、ハードの整備も重要。そのバランスの良い提案はなかなかないと感じた。

<審査について>

- ・地元の人作品も入れてほしかった。
- ・審査員の方々の鋭い指摘が面白く、とても楽しめました。

<運営について>

- ・傍聴者からの意見も聴く場があると良かった。
- ・アイデアコンペなので、もう少し市民票を重視してもよいと思う。
- ・事前投票数についても公開してほしいです。

今後の荻窪のまちづくりについて（主なご意見）

<南北分断について>

- ・是非、良い街にしていましょウ！今回出席して改めて JR、青梅街道の位置、レベルをマイナスととらえるのではなく、プラスに出来るポテンシャルの高い街であることを再確認した。
- ・南北の回遊を第一に、高架にしてエスカレーターやエレベーターも設置。障害のある人や老人、乳母車なども通行しやすく。地下道を(インテグラルビルにも)拡張して駅とつながるようにしてほしい。
- ・今回の提案の中に JR を地下化、高架化が出ないのが残念。

<にぎわいについて>

- ・古いものを活かし、新しい魅力を取り入れながら、にぎわいのある街にぜひなってほしい。
- ・観光という観点も入れてほしい。
- ・小さな商店やサブカルチャーなどの文化を活かした、小規模な開発が望ましいと思います。

・荻窪の雑多なにぎわいを残したものと人々が集えるイベント、パフォーマンスが行える広場が欲しい。

< 荻窪らしさ・特徴・魅力のあるまちづくりを >

- ・新宿とも吉祥寺とも違う、地元の皆で誇りに出来、楽しさと安らぎのある街にしていきたい。
- ・今の荻窪らしさ(芸術、文化)を失うことなく、活性化されればと思う。今回のコンペがきっかけで、街の整備が進んでほしい。

< 道路交通について >

- ・荻窪はターミナルとしてしっかり、人と車をさばく事が役割であって、人、車を街に呼び込むことは望んでいないと思う。

< その他整備について >

- ・タワーマンションはやめてほしい。共通のデザインコード、セットバックルールなどがあった方がよい。

< 協働のまちづくりを >

- ・今回の提案の良い部分を具体化していくために、官民双方に積極的な連携が必要だと思います。現実に即した「荻窪のまちづくり」を！！
- ・荻窪に住んでいる学生を学科別に集めたら活動してくれるかも。一人暮らしの学生がいっぱいいいそうだし。
- ・ハード面では南北分断の解消、ソフト面では荻窪の街全体が一体化できる要素の創設が必要だと思います。それを実現させていくために自治体と民間の協力体制を作る必要があると思います。

< アイデアコンペを活かしたまちづくりを >

- ・各プレゼンにはそれぞれメリット、デメリットがあったので、それぞれのアイデアの特徴を活かし、今後のまちづくりを進めていってほしい。
- ・これで終わらせず、提案者とまちの人のコラボを継続するなど、活用してほしい。
- ・今回のコンペがどのように活かされていくのか、楽しみにしています。

事務局/問合せ先

『これからの荻窪駅周辺まちづくりを考えるアイデアコンペ』事務局

〒166-8570

杉並区阿佐谷南1-15-1 杉並区役所西棟3階

杉並区都市整備部まちづくり推進課都市再生担当内

TEL : 03-3312-2111 内線 3382

FAX : 03-3312-2907
